

曾根遺跡群Ⅶ

平原周辺遺跡

(3)

福岡県糸島郡前原町国指定史跡「曾根遺跡群」

重要遺跡確認調査概要

前原町文化財調査報告書

第 43 集



1992

前原町教育委員会

序 文

平原遺跡は39面にものぼる鑑鏡を出土した墳墓遺跡として著名であり、我国の歴史を解明する上で特に重要であるとの認識から昭和56年に国史跡の指定を受け、出土品は平成2年国の重要文化財の指定を受けております。前原町教育委員会ではその重要性を再認識するとともに、指定地のみならずその周辺を含めた平原遺跡の実像を明らかにし、遺跡の保存に資する目的で昭和63年度から国・県の補助を受け、隣接地の調査を行って参りました。これまでの調査により同地には弥生時代中期の集落が存在したことが判明いたしております。

本年度は指定地西側の隣接地について地権者の御協力を得て確認調査を実施いたしました。果たして関連すると思われる墳墓遺構を検出することができました。昨年11月には平原弥生古墳調査報告書編集委員会により報告書が公刊されており、発掘調査から約30年を経た今日、平原遺跡の研究は新たな転機を迎えたと言えるのではないのでしょうか。

なお末筆となりましたが発掘調査について快諾を戴きました地権者の小川嘉門氏、松藤榮樹氏には深謝の意を表します。

平成4年3月31日

前原町教育委員会

教育長 樽木 昭生

例 言

1. 本書は平成3年度に国・県補助を受けて前原町教育委員会が実施した平原周辺遺跡の重要遺構確認緊急調査の概要報告である。
2. 本書に掲載した測量図の作成は角浩行、岡田りつ子、柏田睦子が行い、遺物の実測は角が行った。
3. 本書に掲載した図面の製図は角、末益真奈美が行った。
4. 本書に掲載した写真の撮影は角が行い、遺跡全景写真の撮影は（有）空中写真企画に委託した。
5. 本書に示した方位は座標北である。
6. 現地調査及び本書の執筆においては岡部裕俊（前原町教育委員会）の協力、助言を得た。
7. 本書の執筆、編集は角が行った。

表紙写真は、曾根丘陵（北西上空から）

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査の組織	1
II. 調査の記録	3
1. 調査区の設定と概要	3
2. 遺構と遺物	6
III. おわりに	9

挿図目次

Fig. I (巻首) 平原遺跡出土品 I (重要文化財)	
Fig. II (巻末) 平原遺跡出土品 II (重要文化財)	
Fig. 1 平原遺跡周辺地籍図 (1/2,000)	1
Fig. 2 平原遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/15,000)	2
Fig. 3 トレンチ設定状況 (東から、手前は指定地)	3
Fig. 4 調査区内遺構配置図 (1/100)	4
Fig. 5 第1～4次調査トレンチ位置図 (1/1,000)	5
Fig. 6 第4次調査トレンチ設定状況 (1/500)	5
Fig. 7 方形周溝墓検出状況 (上から)	6
Fig. 8 土坊②検出状況 (東南から)	7
Fig. 9 住居跡検出状況 (上から)	7
Fig. 10 ガラス玉	8
Fig. 11 出土遺物実測図 (1/3, 1/2, 2/3)	8
Fig. 12 第4次調査区全景 (上から)	10

平原周辺遺跡 (3) 正誤表

ページ	行	誤	正
2	Fig. 2	錢龜塚古墳	錢瓶塚古墳
9	(引用文献)	『平原弥生古墳 大日饗貴の墓』	『平原弥生古墳 大日饗貴の墓』



方格規矩鏡
(33号鏡 徑16.6cm)



方格規矩鏡
(31号鏡 徑18.8cm)

Fig. I 平原遺跡出土品 I (重要文化財)

I. はじめに

1. 調査にいたる経過

平原遺跡（国指定史跡「曾根遺跡群」）周辺の重要遺構確認緊急調査は昭和63年度から平成2年度まで3次にわたり実施されている（註1）。その結果弥生中期初頭の住居跡4棟、溝、ピット等を検出しているが、指定地の方形周溝墓に関連すると思われる墳墓遺構については未だ確認されていなかった。これについては検出された遺構がいずれも大幅な削平を受けており、あるいは削平により消滅した可能性が考えられる。

平成3年度は指定地の北側から西側にかけての3-2~4、7-1・2・5、10-1・2番地の調査を予定していた。しかしながら最終的に地権者の承諾を得られたのは3-3・4番地のみであった。該地は現状の地表レベルが指定地よりやや高いことや銅鏡が表採されていることから墳墓遺構の存在が期待される地区であった（註2）。

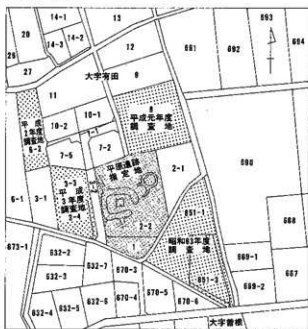


Fig.1 平原遺跡周辺地籍図 (1/2,000)

2. 調査の組織

本年度の発掘調査に係わる組織は以下のとおりである。

地権者	小川 嘉門、松藤 榮樹	
調査主体	前原町教育委員会	
総括	教育長	樽木 昭生
	文化課長	加幡恰都城
	文化課文化財係長	吉村 耕治
庶務	文化課文化振興係長	中園 俊二
調査	文化課文化財係主事	角 浩行

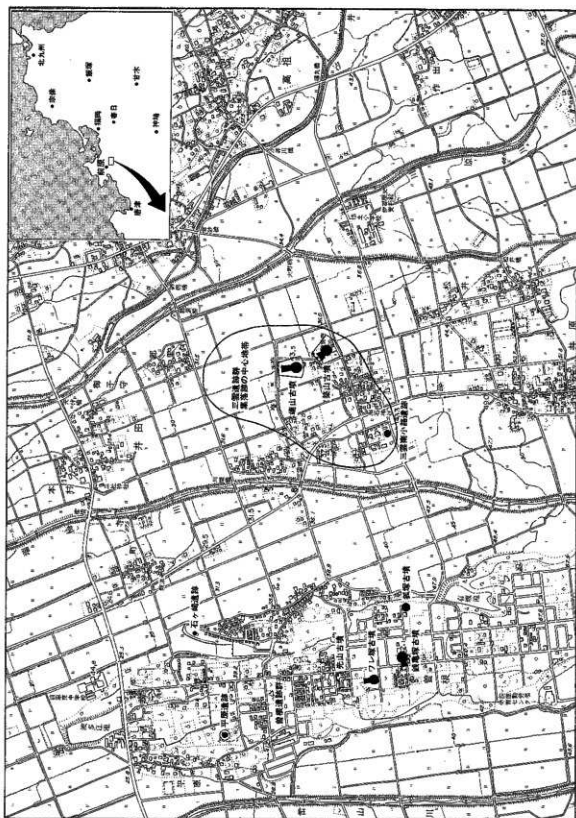


Fig. 2 平原遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/15,000)

II. 調査の記録

1. 調査区の設定と概要

調査はまず承諾を得た3-3・4番地にトレンチを十字に設定し、遺構を確認した時点で必要に応じて拡張することとした。調査地は以前は畑として使用されていたが、現在では耕作されておらず無管理の状態であり、野薔薇やセイタカアワダチソウなどの雑草が生い茂っていた。伐採の後トレンチの設定を行った。トレンチはほぼ南北、東西方向に設定し、幅は4m、長さは南北22m、東西16mである。当地は前述の如く関連墳墓遺構の存在が期待される地区であったためなるべく上層で遺構を確認することに努め、表土除去の段階から慎重に作業を行った。土層は5cm弱の黒褐色土（表土）の下に約10cm灰褐色混砂土（耕作土）があり、その下層が黄褐色粘質土（地山）である。灰褐色混砂土の下部でほんやりとした遺構らしきものが認められたが、判然としなかったため黄褐色粘質土上面まで掘り下げを行った。そうすると北トレンチ東寄りでは南北方向に溝状の遺構が検出され、トレンチ北端から約6mで東（史跡指定地側）へ屈曲していたため、その続きを確認すべく北トレンチを東トレンチの端まで拡張した。すると溝は拡張区内ではほぼ方形に巡ることが確認され、方形周溝墓であることが判明した。その他の遺構としては円形住居跡、土坑、ピットが検出された。

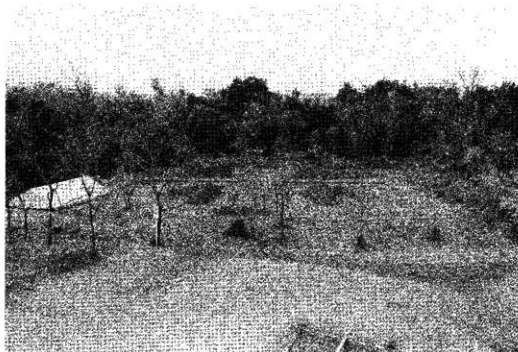


Fig. 3 トレンチ設定状況（東から、手前は指定地）

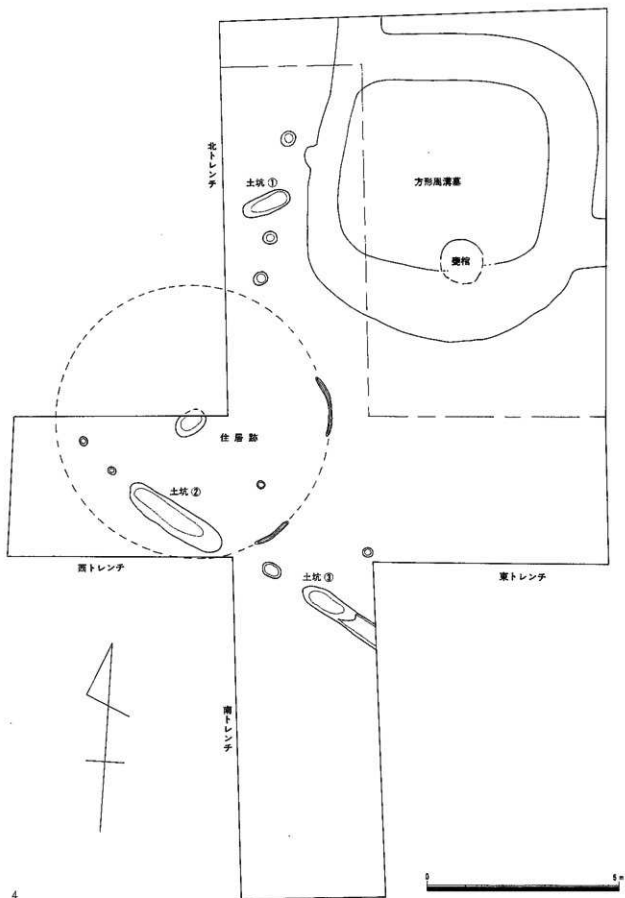


Fig. 4 調査区内遺構配置図 (1/100)

Fig. 5 (右)
第1～4次調査
トレンチ位置図
(1/1,000)

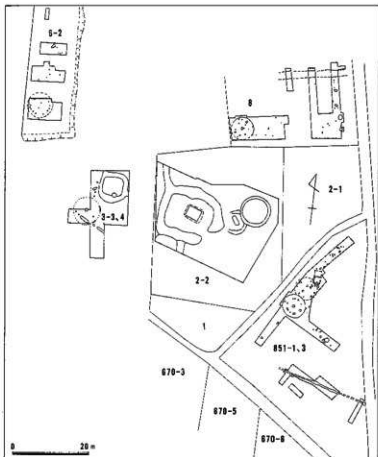
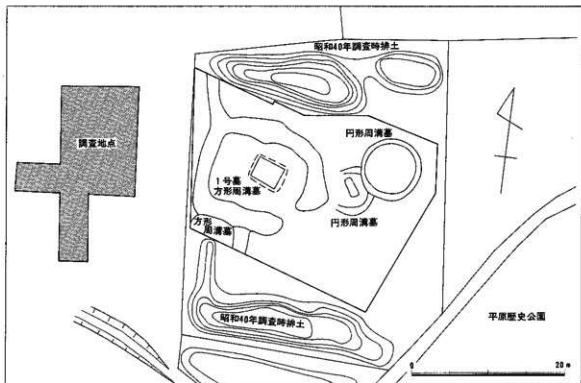


Fig. 6 (下)
第4次調査トレンチ
設定状況 (1/500)



2. 遺構と遺物

(1) 方形周溝墓

調査区北東で検出した。調査ではプランを確認しただけで遺構の掘り下げは行っていない。周溝墓は主軸をほぼ南北に採り、規模は溝の外側で南北8m、東西7.5m、溝幅は0.8~1.8mである。周溝は隅丸の方形プランを呈するが、南側は外側がかなり膨らんで弧状となる。周溝の内側はほぼ方形を呈するようであるが、内側の地山は外側と比べかなり汚れており溝の内側は判然としない。北東隅から北側にかけての周溝内には傘大ないしはそれよりやや大きめの自然石が帯状に検出された。またこの石を境に周溝の埋土は外側が黒褐色、内側が暗茶褐色と異なっている。これらの石が流れ込みなのか、原位置を保っているのかは判断できなかった。また南側の周溝も石こそ検出されていないが同様に埋土が異なっている。周溝には北西隅と南東隅

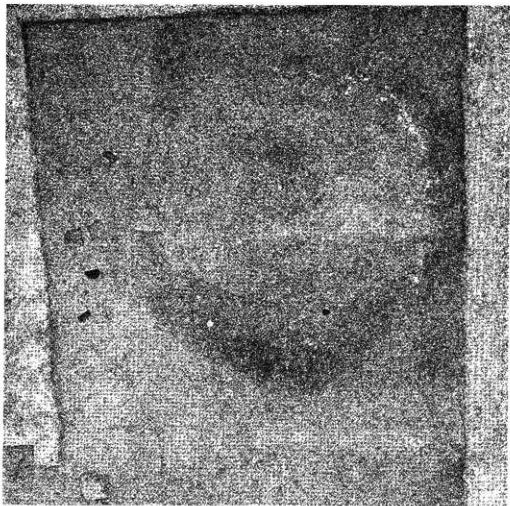


Fig. 7 方形周溝墓検出状況（上から）

で調査区の外側へと続く溝が接続しているのが確認されている。

周溝内の中央付近には主体部らしきものの存在が確認されたが、擾乱を受けているようで判然としなかった。それとは別に南側の周溝にかかるように土器棺が検出された。棺の内部は完全に埋まりきっておらず空洞となっていたため遺構検出時に落ち込み、径20cm程の穴が開いたことにより検出された。土器棺は遺構面から10cm程下が上端で斜めに埋置されており、単棺である。頸部以上を打ち欠いている壺形土器のようで、口径は20cm強である。掘り方は判然としておらず、特に周溝にかかる部分については掘り方と溝との埋土の区別がつかず切り合いは確認できていない。



Fig. 8 土坑②検出状況(東南から)

(2) 円形住居跡

北トレンチと西トレンチにかかる部分が検出され、1/3程は調査区外である。削平を受けており、周溝の一部が確認されたのみである。西トレンチと北トレンチの交点付近で長さ約80cm、幅約50cm、深さ約15cmの土坑が検出され、これが炉であろう。それを中心に復原すると径7mとなる。柱穴と思われるピットが3基検出されている。

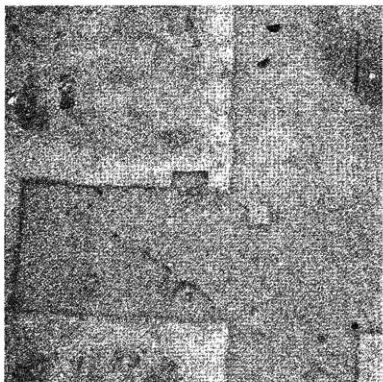


Fig. 9 住居跡検出状況(上から)

(3) 土坑

土坑①は周溝溝のすぐ西側で検出された。長さ約120cm、幅約50cmの長楕円形である。深さは東側が浅く約5cm、西側が約15cmである。土坑②は西トレンチで検出された。長さ約

280cm、幅約70cm、深さ約20cmで、底部は皿状をなす。土坑③は長さ約150cm、幅約50cm、深さ約10cmであり、南東側に深さ数cmの溝状の遺構が接続している。土坑②、③は直線上に乗っていることから、あるいは凹凸のある溝の底部のみが残されたものとも考えられる。

(4) 出土遺物

1・2は甕形土器の口縁部の破片である。1は口唇部に刻み目を施し、調整は内外面ともにナデであると思われるが、全体に風化が激しく詳細は不明である。土坑②からの出土である。以後出土位置を明記していないものは、表土および耕作土からの出土である。2は口縁部の断面が三角形をなし、調整は内外面ともにナデであると思われるが、これも全体に風化が激しく詳細は不明である。3は二重口縁蓋の破片である。調整はナデであり、内面下端に粘土の接合部が認められる。小片で口径は復元できなかったがかなり大きくなるものと思われる。4は甕形土器の破片である。底部が外側へ張り出し上げ底となる。調整は外面がタテハケ、内面はナデであり、底径は復元で6.6cmである。土坑②の出土である。5は甕形土器の破片である。底部が張り出しやや上げ底ぎみとなる。調整はナデのようであるがこれも全体に風化が激しく詳細は不明である。底径は7.6cmである。1・5は夜白Ⅰ式～板付Ⅰ式期(山崎1980)、2・4は城ノ越式期、3は後期前半～中頃に属するものと考えられる。



Fig.10 ガラス五

6は偏平片刃石斧で頭部を折損する。現存長5.6cm、幅2.5cm、

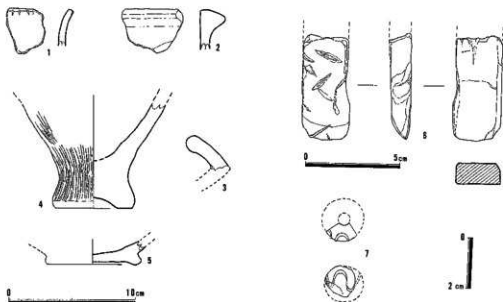


Fig.11 出土遺物実測図 (1/3、1/2、2/3)

厚さ1.1cmである。7は赤色を呈するガラス玉の破片である。外面に黄色を呈するガラス(?)紐で波状紋を施す。原形は径1.8cm、厚さ1.4cmと推定される。

Ⅲ. おわりに

今年度の調査の成果と今後の問題点について簡単にまとめておわりとしたい。

まず、今年度の調査の成果として方形周溝墓を確認したことがあげられる。一辺が7～8mと小型のものであるが、指定地の方形周溝墓(以下1号墓と記述する)との関係が問題となるであろう。今年度はプランを確認したに止まり、遺構に確実に伴う遺物が検出されておらず時期を確定することができなかった。報告書によれば1号墓の年代は後期でも古い時期とされているが、確実に伴う土器の出土が少なく土器による細かい時期決定は差し控えられている(渡辺1991)。本周溝墓の時期が確定できたならば、1号墓の時期をより細かく推定する大きな手掛かりとなる可能性もある。しかしながら上層の耕作土から出土した遺物を見ると、方形周溝墓に伴う可能性のあるものとしては夜臼Ⅰ式～板付Ⅰ式期、前期末～中期初頭、後期前半～中頃のものがある。いずれにせよ今後の大きな課題のひとつである。

また、指定地の調査(原田1991)当時、1号墓西南に小型の周溝墓の溝が検出された事が記されている。今回検出の周溝墓にも北と東に続く溝が確認され、隣接する周溝墓の存在が考えられる。今後は未調査である3～4番地の一部や3～2番地の調査が必要となるであろう。

最後に夜臼～板付Ⅰ式期の遺物が出土したことが注目される。いずれも小片であるが、底部の破片はその形態から突帯文系の壺である可能性が高い。指定地の調査(原田前掲)および周辺の調査(註3)においても同期の遺物の出土は認められていないが、該地に同期の遺跡が存在した可能性が考えられ、その確認が今後の課題となるであろう。ちなみに同期の遺跡として近辺では石ヶ崎遺跡第6号塚棺がある(註4)。

以上簡単にまとめたが、今後平原遺跡の範囲を確認し保存策を講ずるとともに、これらの問題点を解決することも重要な課題となる。

【引用文献】

- 岡部裕俊 1990 『曾根遺跡群Ⅴ 平原周辺遺跡①』前原町教育委員会
 - 岡部裕俊 1991 『曾根遺跡群Ⅵ 平原周辺遺跡②』前原町教育委員会
 - 原田大六 1952 『福岡県石ヶ崎の定石墓を含む原始墓地』『考古学雑誌』第38巻第4号
 - 原田大六 1991 『平原弥生古墳 大日靈貴の墓』上・下巻 平原弥生古墳調査報告書編集委員会
 - 山崎純男 1980 『弥生文化成立期における上野の福永的研究』『披山先生古稀記念古文化論叢』
 - 越辺正氣 1991 『第六原第六跡 上部』『平原弥生古墳 大日靈貴の墓』上巻 平原弥生古墳調査報告書編集委員会
- 【註】 1. 前原町教育委員会より調査され、その概要は岡部1990, 1991により報告されている。
2. 報告書(原田1991)には昭和47年に表層された皿の破片2点が掲載され、図き取りにより昭和12年頃、径23cm程の完形(?)の鉢も表層されたことが記載されている。
3. 註1に同じ
4. 原田1952によれば第6号塚棺は「前期弥生式土器に近似しながらも九州晩期縄文式土器(御領式)の形態を遺存する」ともされている。



Fig.12 第4次調査区全景（上から）



方格規矩鏡
(39号鏡 径12.0cm)



方格規矩鏡
(38号鏡 径12.8cm)

Fig. Ⅱ 平原遺跡出土品Ⅱ (重要文化財)

平原周辺遺跡

(3)

前原町文化財調査報告書 第43集

発行 前原町教育委員会
栃岡早糸島郡前原町大字前原623番地

印刷 アオヤギ株式会社
福岡市中央区旗通2丁目9-31